

2017年7月11日

高橋壮臣「中学校実践：聖武天皇の大仏造立を多面的・多角的に解釈する授業  
—六つの視点で考察するジグソー法を活用して—」  
（『歴史地理教育』2017年7月）

社会専修吉田ゼミ 井上優志

### 1.はじめに

この大仏の写真は誰が作ったでしょう？  
では何故この大仏を作ったのでしょうか？

### 2.授業実践

今回紹介するのは『歴史地理教育』（7月号）の高橋壮臣さんによる中学校歴史実践「中学校実践：聖武天皇の大仏造立を多面的・多角的に解釈する授業—六つの視点で考察するジグソー法を活用して—」です。高橋先生はこのような多面的に考察することは、自分たちと異なる文化や価値観を認め、共に社会を創り上げていく力の育成につながると考え、必要であると述べています。

この授業は全3時間構成で作られています。注目する視点として、「社会」「政治」「経済」「聖武天皇」「行基」「人々」の6つの視点から話し合いが行えるように、資料を用意し、生徒に読み取る活動を行ないました。6人班を作り、1人1人が違う史料から大仏造立を考察しました。1時間目では資料を読み取る活動を行ない、二時間目に班活動を行ない、3時間目にクラスで話し合ったことを共有する時間を設け、多面的、多角的に大仏造立を見ていきました。

この授業では感想として生徒の一人が、史料批判の重要性や、解釈の違いが資料によって違いが生ずることに気付いた生徒もいました。

### 3.考察

私はこの授業を読んで参考にした点がある1つあります。それはジグソー法を活用し、生徒に多面的、多角的に資料を読み取る視点の重要性に気付かせた点です。現在、「主体的・対話的で深い学び」が重要視されています。私も高橋先生のような授業展開を行えるようになりたいです。

しかし疑問点もあります。それは配布する資料の公平性です。高橋先生も最後に述べていましたが、古い時代の資料となると、為政者側の視点が多くなってしまい、支配される側の人々の資料がごくわずかになってしまうという問題があります。私も模擬授業や実習中の授業で観点が異なった資料を配布し授業を行いました。その時も配布した資料により考えが偏ってしまう問題が起こりました。このような資料の問題をどう克服するかがジグソー法を活用する際に重要になってくるのではないかと感じました。